

4月22日、28日 経済水道委員会（岡田ゆき子委員・西山あさみ委員）

木造復元ではなく、早急に耐震補強を 名古屋城天守閣整備 見切り発車は許されない

4月22日と28日の経済水道委員会で、名古屋城天守閣整備についての審議が行われました。28日には、木造復元の優先交渉事業主選ばれた竹中工務店の技術者や、審査選考委員が参考人として計6名出席し、質疑応答が行われました。

震災うけ、木造化方針の転換を

熊本地震では、文化財の被害も相当出ています。熊本県内では、石垣があちこちで崩れ落ち、重要文化財となっている櫓が倒壊し、復旧には10年以上かかると言われています。一方で名古屋城天守閣の木造復元構想では、工期は4年4カ月という短期間、総事業費は最大505億円という計画です。

西山あさみ議員は22日、「被災地の復旧・復興、熊本城跡も復旧を進めなければいけない時に、名古屋市が名古屋城の天守閣に人や資材をかき集めるようなことをやっているのか」と厳しく追及し、「『木造復元ありき』の方針を転換すべきだ」と求めました。

耐震改修で半永久的に残していく努力を

いま大至急やるべきことは耐震補強だと日本共産党は主張しています。しかし、名古屋市が市民に木造復元への賛否を問うアンケート用紙案では、耐震改修工事をして「概ね40年の寿命」と記載されています。

名古屋城の入場者数見込み(2016.4.28委員会資料より)

年度	入場者(万人)	入場料(億円)	備考
27	174	-	-
28	180(197)	入場料のうち75%を天守閣分とする	天守閣閉鎖と駆け込み需要本丸御殿第2期公開
29	90(98)		天守閣閉鎖
30	160(174)		復元工事見学施設金シャチ横丁開業本丸御殿全面公開
31	160(174)		展示収蔵施設完成
32	384(418)	17.91	8月に天守閣木造復元
33	446(485)	24.13	ブームの縮小
34	401(437)	21.70	
35	360(393)	19.48	
36~81	年 360(393)	年 19.48	46年間の累計896億800万円

*入場者数の()は最大見込み。入場料は改定後の見込み

西山議員は28日、選考委員の麓和善・名工大教授(建築史・意匠)に、耐震改修をして40年以降も、もつ可能性があるのか聞きました。

麓氏は、近年は鉄筋コンクリート造の建物の文化財が増えており、「定期的な修理を加えながら半永久的に残していこうと努力していくつもりで、文化財に指定されている」と述べました。耐震改修しても40年しかもたない、というわけではなく、さらに先まで寿命を延ばせる可能性があることにも同意。

西山議員は、耐震改修や、さらなる長寿命化についても調査を進めるべきと求めました。

税金は使わない、とは明言できず

市民アンケートには、総事業費については市債を発行し「全額、入場料収入で返済します」と書かれています。岡田ゆき子議員は28日、「税金は一切使いません」との市長発言が本当なら、そう書くべきではないか、と質問。当局は「現時点では一般会計からの繰り入れは考えていません」と回答しました。

税金は投入しないと言いますが、あくまでも「現時点」。入場者が見込めない場合は結局、税金投入も視野に入れるしかありません。入場者数の見込みについても、何事もなく「うまく行けば」の話です。想定以上の建設費などが増えたり、入場者数がなかった場合も「税金を一円も使いません」と言えるのか、と岡田議員。当局は明言を避けました。

取り壊し先行で後戻りできない工程案

「東京オリンピックまでに」というのは無謀なスケジュールだと、審議ではっきりしました。今年12月からエレベーターを、来年6月から天守閣を解体するという工程案です。しかし、その頃は実施設計を策定している最中です。設計に問題点があっても、現天守閣が無ければ、もう後戻りはできません。国立競技場問題の二の舞になりかねない無茶苦茶なスケジュールです。

市は連休明けに、市民向けに2万人アンケートと報告会を開催する計画です。